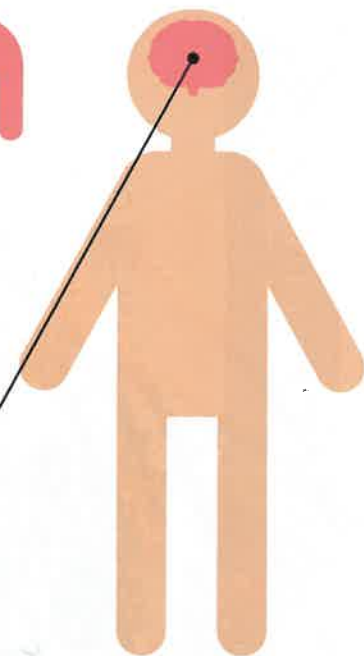


# 臓器のはなし



今月は

## アルツハイマー病

誤診が4割？  
診断が難しい脳の病

64歳以下の発症は  
若年性の扱いに

アルツハイマー病は、進行性の脳の病気です。脳内にアミロイドベータとタウという2つのタンパク質が、蓄積するのが主因ではないかと考えられています。病気が進行すると認知機能が低下し記憶障害に。やがて単純作業もできなくなるように…。

認知症は病名ではなく物忘れが

顕著になった状態（加齢による一般的な物忘れとは違って、社会生活に支障をきたす状態）のこと。認知症を引き起こす病気で最も多いのがアルツハイマー病で、64歳以下で発症した場合は、「若年性アルツハイマー病」と言います。原因や症状は基本的に高齢者と同じですが、頭部損傷などの事故による後遺症で起こるケースも少なくありません。

アルツハイマー病とは別の物質で発症するレビー小体型認知症や、血管が詰まって起きる血管性認知症などもあります。主に運動機能に障害があらわれるパーキンソン病は、進行すると認知障害を併発し「パーキンソン病認知症」へ。認知症となる疾患は、実に数十にも及ぶそうです。

病気の進行を遅らせる  
画期的な新薬が登場

最近の研究で、アルツハイマー病と診断された患者の約4割が誤診の可能性があると報告されました。脳の診断は熟練の医師でも難しいのは事実です。病理診断で、胃や腸などはカメラを通して異常が疑われ

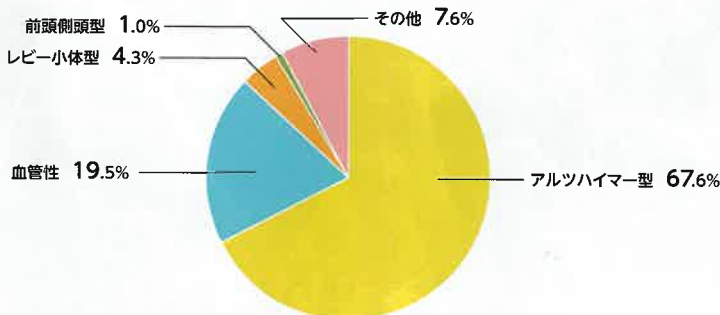
たら組織の一部を取り、病理検査を行います。しかし患者の生存時に脳の組織を採取することは、脳腫瘍などの手術の際の病変部の切除やMRIのガイド下で行う生検など、簡単にはできず、認知症の病理診断は困難です。

CTやMRIによる画像診断、脳の髄液を分析する脳脊髄液検査などで調べますが、精度に限界があります。患者や家族への問診、認知機能を測るテストをもとに主に症状から診断しますが、アルツハイマー病と初期症状が似ている疾患も多く、診断に悩むケースが多いそうです。

23年にアルツハイマー病に対する世界初の治療薬「レカネマブ」が登場しました。治験の結果から早期の患者に投与すれば、重い症状の認知症へ進行するのを、2〜3年遅らせることも可能だといわれています。

薬の年間費用は約300万円（体重50kgの場合）だそうです。高額療養費制度が適用されるため、負担額は抑えられると思います。ただ、あらゆる認知症が適応とはなりません。病院側は早い段階での正確な診断が求められるでしょう。

認知症の主な種類



資料：厚生労働省「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能への障害への対応」（平成25年5月報告）

監修

浅海 直  
あさうみ すなお  
(医療法人社団  
平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院（内科副部長）、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。